



Tokyo Gakugei University Repository

東京学芸大学リポジトリ

<http://ir.u-gakugei.ac.jp/>

Title	日本語を母語とする特異的言語発達障害児の言語特徴(審査結果の要旨)
Author(s)	村尾, 愛美
Citation	
Issue Date	2016-03-15
URL	http://hdl.handle.net/2309/145677
Publisher	
Rights	

審査結果の要旨

(1) 研究の目的に意義や独創性があるか。

特異的言語発達障害 (specific language impairment, SLI) は、知的障害や聴覚障害、対人関係の問題などが認められないにもかかわらず、言語に限ってその発達が妨げられる障害をいう。

本論文は、まだ解明されていない日本語を母語とする SLI 児の言語特徴を明らかにすることを目的としたものである。SLI 児の早期発見と支援につながる研究であるという点で教育および臨床上の意義がある。また、日本語において SLI がどのような特徴をもって現れるかを明らかにすることは、SLI の普遍的な言語特徴の解明に貢献するという点で学術的意義も有する。さらに、2例を対象とした約 10 年にわたる縦断研究と、その結果を踏まえた多数例を対象とした横断研究からなる点に本研究の独創性が認められる。

(2) 研究の方法は当該学問分野において妥当なものか。

本論文では、言語障害学および心理言語学領域における代表的な研究方法が用いられている。SLI 児 2例を対象とした縦断研究においては、約 10 年にわたって録音されてきた自然発話データが文字化され、誤用率と誤用の特徴が検討されている。誤用の同定の際は評価者間一致度が算出されていた。SLI 児多数例を対象とした横断研究においては、実験的手法が用いられており、刺激文に対する反応の分析が従来の基本的な手続きに沿って行われている。

以上のことから、本論文で用いられている方法は研究目的に合致したものであり、当該学問分野において妥当なものであると評価できる。

(3) 研究資料やデータの収集と分析が適切になされているか。

本論文では、関連する従来の文献が適切に収集され、本研究の背景が明確に記述されている。特に、SLI 児・者の言語特徴に関しては、最近の研究動向が欧米の研究を中心に綿密に押さえられている。データの収集の際は対象児の人権に対する配慮が十分になされていた。縦断研究の対象とした 2例については、対象児の保護者に研究目的や個人情報の取り扱いなどを丁寧に説明し、承諾を得ている。多数例を対象とした横断研究においては、比較すべき統制群が、従来の SLI 研究を踏まえて、適切に選択されていた。本研究において用いられた統計的手法も妥当なものであった。以上のことから、研究資料やデータの収集および分析は適切になされていると評価できる。

(4) 研究の考察と結論が妥当であり、学術的な水準に達しているか。

総合考察では、日本語を母語とする SLI 児の言語特徴として以下の 5 点を提案している。1) 形態論的・統語論的側面 (格助詞、時制、アスペクト、受動文) の困難さをもつ、2) 形態論的・統語論的側面の中では格助詞の使用が最も困難である、3) 構造格の格助詞のほうが内在格の格助詞の使用よりも困難である、4) 格助詞の使用の困難さは持続する、5) 自然発話における格助詞の誤用率は実験課題に比して著しく低い。これらの提案は、本研究における膨大な縦断研究データと多数例を対象とした横断研究データの分析結果を踏まえたものであり、妥当なものであるといえる。上記 5 点について、英語など日本語以外の言語を母語とする SLI 児に関する従来の

結果との比較がなされ、共通点と相違点について考察がなされている。個々の考察においては、従来の SLI 研究の知見が十分に踏まえられており、今後の研究の発展を示唆する新たな視点が含まれていた。

以上のことから、本研究でなされている考察および結論が妥当であり、学術的水準に達していると評価できる。

(5) 取得学位にふさわしい意義や成果が認められるか。

本論文の総合考察で示された日本語を母語とする SLI 児の言語特徴の提案は、国内外を通じて初めての明示的かつ包括的な提案であり、大きな成果であるといえる。実証的データに基づくこれらの言語特徴の提案は、日本語を母語とする SLI 児の早期発見のための臨床的指標を提供するものであるとともに、現在、我が国ではほとんど対応がなされていない学齢期の SLI 児の支援につながる知見であるという点で教育、臨床上、有意義である。

また、本論文で提案された日本語を母語とする SLI 児の 5 つの言語特徴と、これまで報告されてきた英語など他の言語を母語とする SLI 児の言語特徴との間には共通点とともに相違点がみられる。このことは、本研究の成果が我が国の SLI 研究のみならず、SLI の普遍的な言語特徴の解明をめざす世界の SLI 研究を刺激し、その進展に寄与しうることを示唆しており、この点で学術的意義を有する。

以上の点を総合的に判断し、審査委員会は全員が一致して、本論文が東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科の博士（教育学）の学位授与に相応しいとの評価を行った。